

新年あけましておめでとうございます。



兎年にちなんで

内野 実



表紙の切手は、1998年発行の「新年賀切手発行50年」です。戦後のS26年用、S38年用、S62年用に発行された🐰をデザインした過去の年賀切手とH11年用に発行される年賀切手を組み合わせて小型シート風な感じになっております。



普通シートの単片



小型シートの単片



普通シートの切手と小型シートの切手は、紙の漉き目によって分類されたり、耳紙つきでないと区別がつかないものがありますが、S26年に発行された切手は80面の普通シートは目打ち楕型12、小型シートは全型13½で単片でも容易に区別することが可能です。

年賀切手のデザイン選択に当たっては、いろいろと苦勞されたようです。S25年に発行された「応挙のトラ」に続き干支でシリーズ化の方針もあったようですが、反対の声も多く上がる中で、結局のところS26年は「🐰」、翌年以降は6年間ほかの題材でS33年より干支をデザインすることが再開されることとなりました。

年賀状専用の絵入り年賀印というものもS25年よりS31年まで使用されました。切手に満月押印された物は、大変高価に取り引きされています。年賀状の料金は4円に説定されており、年賀切手は小型シートとして景品となるため、後日私製はがきに使用を前提とし5円で発行されました。

また、H12年には2000年ミレニアムということで機械印では、「2000.1.1年賀」と表示された。翌H13年では47都道府県別のデザインされた絵入り機械印なるものも登場しました。3ページをご覧ください。

年賀状に押された絵入り年賀印

